

まほろん

通信



「わかったこととわからないこと」
を知る展示

◆特別展「ふくしま発掘最前線—十三遺跡記—」◆

◆楽しい◎まほろん◎どんなところ?◆
土偶を探してみよう

◆発掘よもやま話◆
かつつあの技

◆まほろんで働く学芸員のお仕事
のほんの一部を紹介します◆
学芸員の一日

◆収蔵資料紹介◆

三春町 蛇石前遺跡出土 縄文土器

「わかったことと わからないこと」

を知る展示

特別展

「ふくしま発掘最前線

じゅうさんいせき
—十三遺跡記—

文：佐々木 慎一（主幹）



〈発掘の賢者〉

みそう
未曾有の大震災から9年。今回の特別展示では、震災発生以降、福島県内で現在も続けられている復興関連の事業などに伴う発掘調査をピックアップし、その成果をご紹介します。

紹介する遺跡は、復興関連事業の多かった福島県の浜通り（8遺跡）を中心に、中通り（3遺跡）・会津（1遺跡）の12の遺跡と現在も調査中1遺跡です。江戸時代から旧石器時代

まで遡る通史的な展示で、遺跡の発掘調査によってわかったこと、わからないことを確認しながら、歴史の謎を考えることができる内容となっています。

展示は、「なぜ遺跡を調査するの？」という疑問を解くコーナーからスタートします。遺跡を見つける方法や発掘調査の様子、そして、調査した遺跡の内容を本にまとめ、展示などに活用できるまでを解説しています。遺跡のそれぞれの内容については、展示された出土品をご覧になりながら、展示会場で確認してください。

また、13番目の遺跡として、縄文時代中期の漆器や木製品しっきが大量に出土している川俣町前田遺跡かわまたまちまえだ いせきの出土品の一部も特別に展示されています。国内最古となる火鑽臼ひきりうすや、朱色の発色が鮮やかな漆塗りの木質遺物うるし もくしつ いぶつ、装飾が目を引く丸木弓まるきゆみなど、一見に価値するものばかりです。

今回の展示は、見学された方々が遺跡に親しみ、考えることのできる内容となっていますので、ぜひご覧ください。

なお、現在は、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止する

ため、入館時の入場者数調整など、ご不便をおかけする場合があります。

詳しい情報は、ホームページ等でご確認ください。



〈川俣町前田遺跡出土 火鑽臼〉



〈相馬市向山遺跡出土 鏡〉

〈須賀川市高木遺跡出土
弥生土器〉

表紙の1枚

3月に屋根の葺き替え工事が完了し、装いも新たになった「奈良時代の家」です。初夏となり、周囲の木々は青く繁りました。春と比べて随分印象が変わったように感じます。どこことなく生活の気配が感じられませんか？

楽しい◎まほろん◎ どんなところ？

文：廣川 紀子（主任学芸員）

土偶を探してみよう

みなさんは、常設展示室の「生と死」のコーナーに展示されているくまほろん土偶を見たことがありますか？

土偶とは、縄文時代に土でつくられた人形のことです。子孫に恵まれることを願うお祈りに使われた道具と考えられています。それらの土偶の中で、くまほろん土偶とも呼ばれている

郡山市荒小路遺跡から見つかったものは、

面長の丸顔におちょぼ口が付いたあいきょう

のある表情をしています。とても親しみが持てますよね。

そのくまほろん土偶の仲間たち（？）が体験広場のあちこちに置かれています。

ぜひ、お友だちやご家族と一緒に探してください。

写真がヒントです！



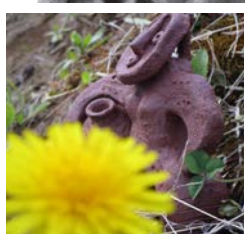
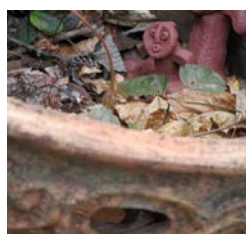
くまほろん土偶
郡山市 荒小路遺跡出土



みつけてね



くまほろん土偶の仲間たち



学芸員の日

朝、体験広場の枝拾い。
復元建物に異常がないかも点検します。



常設展示の墨書土器に照明による劣化の影響がないか、保存担当の学芸員と一緒に点検します。



常設展示「みんなの研究広場」の展示替え！それまでの展示品を梱包し、片付けをします。



引き続き展示替え。今回は土器づくり講座に参加された皆さんの作品展です。最後にパネルを掲示して完了！

今回ご紹介した学芸員

大山 孝正（専門学芸員）

まほろん勤務12年目。趣味は旅行。

とくに全国の博物館や文化財めぐりなど。



収蔵資料紹介
三春町
蛇石前遺跡出土
縄文土器

今回は、三春町蛇石前遺跡出土の縄文土器をご紹介します。
注目すべきは形。このような土器を、キャリパー形深鉢とよびます。モノの厚みを測るキャリパーという道具に似ていることに由来し、縄文時代中期に多くみられる形です。

この土器は、器高約20センチほどの比較的小さなキャリパー形深鉢です。口縁部のダイナミックな曲線に、キャリパーというより、エリンギっぽさを感じるの、食いしん坊な私だけでしょうか？



文：河西 久子（学芸員）

まほろんで働く学芸員のお仕事のほんの一部を紹介します！

発掘 よもやま話

かつあの技

道具の扱い方ひとつで発掘調査の精度が違ってきます。

文：本間 宏（参事兼学芸課長）

右の写真に写っているのは、「草くさ刈り」と呼ばれる農具です。「草刈り」は、福島県内の農家では「かつあ」とか「かつあぎ」などと呼ばれています。これは、引ひっ掻くという意味の方言「かつあく」に由来するようです。溝などの泥や落ち葉をかき集める「鋤簾（ジョレン）」という道具に似ていますが、「かつあ」は草を土ごと削り取るための道具なので、湾曲した鋭い刃を持つという違いがあります。

「かつあ」は、土の表面を削り落とす道具として、発掘調査の現場で大活躍します。その出番は、表土（耕作土や盛り土など）を取り除いてからです。土の表面をきれいに削り落とすことによって、土の色や含有物の違いがわかり、埋まってしまった昔の穴（柱を立てた穴やお墓の穴など）や谷などの輪郭を見極めることができます。ただし、うまく用いないと、その精度とスピードに大きな差が生まれます。

左の写真は、「かつあ」の使い方の「悪い例」と「良い例」です。手の位置が異なると、地面と「かつあ」の刃先の角度が違ってくるのがおわかりでしょうか。角度が大きくなると、刃先が土の抵抗に負け、削った面が波打ったり、削り残しが多くなったりします。「良い例」の削り方だと、作業効率がグンとアップします。はい、この道 40 年の技の一部をご紹介しました♪



悪い例



良い例



編集後記

新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント等の予定が減ってしまった「まほろん」の主な今後の予定「欄」に少し寂しさを感じながらの編集作業でした。まほろんは、各種対策を講じながら開館しています。早く大きな声で「みんな来てね」と言いたいのです！

まほろんの主な今後の予定

6/6（土）～8/30（日）

特別展「ふくしま発掘最前線
—十三遺跡記—」

9/26（土）～12/13（日）

企画展「ようこそ！古墳時代へ」

新型コロナウイルス感染症の拡大の状況により、行事予定が変更となる場合があります。詳細やそのほか最新の情報については、まほろんのホームページをご覧ください。



YouTube
はじめました！

チャンネル登録してね

INSTAGRAM

やっています！

いいね！&フォローしてね



MAHORON.OFFICIAL

まほろん
通信
vol. 76

令和2年7月8日発行

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）
休館日 月曜日（月曜日が祝日・休日の場合にはその翌日ですが、GWとお盆期間中は開館します）/ 国民の祝日の翌日（土・日曜日に当たる場合は開館/ 年末年始（12月28日～1月4日）
入館料 無料（体験学習の内容によっては、材料費が必要な場合があります。）

お問い合わせ



福島県文化財センター・白河館

〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86

☎ 0248-21-0700

fax 0248-21-1075

ホームページ

まほろん

検索

